

令和6年10月20日（日）  
掛川市文化・スポーツ振興課

はじめに

- 高天神城は、小笠山から南東に張り出した標高132mの鶴翁山〔かくおうさん〕に築かれた山城
- 高天神城築城の3つの説
 

①：鎌倉時代の初め頃（土方次郎義政築城説）
②：室町時代の半ば頃（今川了俊築城説）
③：戦国時代初頭（今川氏家臣の福島氏〔くしまし〕による築城説）
- ⇒①、②は軍記物由来の説であり否定する研究者も多い。現在は③の説が有力。
- 城を巡って甲斐（山梨県）の武田氏、三河（愛知県東部）の徳川氏による激しい争奪戦が繰り広げられた。
- 高天神城の一般的なイメージ
  - ⇒「高天神を制する者は遠江を制す」…、難攻不落の山城…
  - ⇒今回は城の構造を中心に説明します。

高天神城跡を見るポイント

ポイント① 「一城別郭」と称される山城

- 中央に位置する井戸曲輪を挟んで、東峰〔ひがしみね〕、西峰〔にしみね〕に城郭が展開。
- ⇒東峰…本丸、西の丸、御前曲輪〔ござんくるわ〕、的場曲輪〔まとばくるわ〕、三の丸
- ⇒西峰…西の丸、二の丸、堂の尾曲輪〔どうのおくるわ〕、井楼曲輪〔せいろくわ〕
- 東西の峰は、単独でも城として機能するように作られている。

ポイント② 東峰、西峰に残る城郭遺構の違い

- 東峰は鶴翁山の地形を最大限に活用して築城（人工的に作られた構造物があまり見られない）。
- 西峰は土塁〔どるい〕、堀切〔ほりきり〕、横堀〔よこぼり〕等の遺構が良く残る。
- ⇒西峰の方が斜面が緩い。（攻め手も登りやすい）
- ⇒天正2年（1574）に高天神城を攻略した武田勝頼（たけだかつより）が地形の弱点を克服するために改修。

ポイント③ 西峰に残る城郭遺構（土塁、堀切、横堀の機能）

- 西峰は堀切、縦堀によって分断され、西側には100mにも及ぶ土塁、横堀によって守りを固めている。
- 西峰の曲輪と横堀の下では、現在でも10数メートルの高低差がある。
- 西側から来た攻め手を西峰へ上げないための工夫。（守り手は頭上を攻撃しやすい）

ポイント④ 「生活空間」としての高天神城

- 東峰の本丸、西峰の二の丸の発掘調査では、多数の建物跡とかわらけ、陶磁器類が出土している。
- ⇒播鉢〔すりばち〕、甕〔かめ〕の破片が多く出土（甕は水を貯めるために使用か）。
- ⇒天目茶碗〔てんもくちやわん〕、茶入〔ちやいれ〕の出土（城内に茶室が存在した可能性）。



本丸跡で見つかった礎石建物跡



堂の尾曲輪で見つかった天目茶碗と茶入

